授業科目	公衆衛生学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34　時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	水野　恵理子		実務経験: 研究所・動物病院／研究員・獣医師		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
公衆衛生の基本的な考え方を理解し、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生などについて学習する。

授業方法・形態	講義	講師			

授業は講義を中心とする。

授業計画・内容	
①	公衆衛生学　概論
②	人獣共通感染症　概論
③	人獣共通感染症の伝播様式と予防対策
④	動物由来の主な人獣共通感染症
⑤	ウイルスによる人獣共通感染症①
⑥	ウイルスによる人獣共通感染症②
⑦	ウイルスによる人獣共通感染症③
⑧	細菌による人獣共通感染症①
⑨	細菌による人獣共通感染症②
⑩	細菌による人獣共通感染症③
⑪	真菌による人獣共通感染症①
⑫	真菌による人獣共通感染症②
⑬	寄生虫による人獣共通感染症①
⑭	寄生虫による人獣共通感染症②
⑮	滅菌について
⑯	消毒について
⑰	動物防疫
評価方法	出席状況、筆記試験を考慮して成績を評価する
受講生に対するメッセージ	将来動物病院で勤務する際に衛生面で注意するべきことを理解し、飼い主への飼育・衛生管理指導に活かすように学習する。

教科書・参考書・資料・参考文献	
書名：「動物看護コアテキスト　第３巻」　出版社　ファームプレス	

授業科目	飼育学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間（合計 102 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	池田　玲奈		実務経験:動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
動物飼育の方法について学習する。

授業方法・形態	講義	講師			
授業は講義を中心とする。飼育の目的となる『健康維持』をテーマに、前期では健康でいられるための事前の対処。後期では実際に怪我や病気のなった時の事後の対処で学んでいく。					

授業計画・内容			
①	飼育の意義と必要性	⑱	応急手当の目的
②	日常管理（環境）自然環境、季節	⑲	犬への近づき方
③	日常管理（観察）元気食欲、体温、脈拍	⑳	保定の仕方
④	日常管理（観察）体のチェックポイント	㉑	犬の運び方
⑤	日常管理（観察）日常の世話の注意点	㉒	創傷の消毒の仕方
⑥	日常管理（観察）下痢の原因と対処法	㉓	薬の投与方法①（飲み薬）
⑦	日常管理（観察）嘔吐の原因と対処法	㉔	薬の投与方法②（目薬、耳薬）
⑧	日常管理（運動）散歩の意義と注意点	㉕	応急手当①痙攣
⑨	日常管理（運動）犬同士の接触について	㉖	応急手当②昏睡
⑩	日常管理（衛生管理）消毒の意義と必要性	㉗	応急手当③失神
⑪	日常管理（衛生管理）微生物の分類	㉘	応急手当④貧血
⑫	日常管理（衛生管理）洗浄と消毒方法	㉙	応急手当⑤やけど
⑬	日常管理（衛生管理）代表的な消毒薬①	㉚	応急手当⑥凍傷
⑭	日常管理（衛生管理）代表的な消毒薬②	㉛	応急手当⑦咳
⑮	日常管理（衛生管理）効果的な消毒方法	㉜	応急手当⑧毒物摂取
⑯	日常管理（餌）餌の種類	㉝	応急手当⑨熱中症
⑰	日常管理（餌）給与時の注意点	㉞	応急手当⑩低体温

評価方法	学期末試験の内容と出席状況、受講態度を考慮して成績を評価する。
受講生に対するメッセージ	安全かつ健康的に動物を扱うことを学ぶ『飼育学』は、ペット業界では必須の課目となる。正しい知識を得て『やっている』から『できている』にレベルを上げていくことで、プロとしての違いが出てくる。

教科書・参考書・資料・参考文献	教科書・参考書

書名『コンパニオン・アニマルの新健康管理学』　著者：浅野妃美、浅野隆司　出版社：インターズー

書名『イラストでみる犬の応急手当』　編者：安川明男、今井康費仁、左向敏紀、宮原和郎　出版社：講談社

授業科目	飼育学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間（合計 102 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	池田　玲奈		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
動物飼育の方法について学ぶ。					
授業方法・形態	講義	講師			
授業は講義を中心とする。これまでの経験を活用しながら、犬の病気の早期発見を目的としている。また感染症の知識を得ることで、日頃の危機管理能力を向上して衛生管理の意識を高めている。					

授業計画・内容	
①	ズーノーシスを学ぶ意義
②	狂犬病（病原体、感染経路、症状）
③	破傷風（病原体、感染経路、症状）
④	トキソプラズマ症（病原体、感染経路、症状）
⑤	皮膚糸状菌症（病原体、感染経路、症状）
⑥	サルモネラ症（病原体、感染経路、症状）
⑦	腸管出血性大腸菌感染症（病原体、感染経路、症状）
⑧	カンピロバクター腸炎（病原体、感染経路、症状）
⑨	レプトスピラ症（病原体、感染経路、症状）
⑩	オウム病（病原体、感染経路、症状）
⑪	マダニの媒介するズーノーシス（予防）
⑫	エキノコックス症（病原体、感染経路、症状）
⑬	ズーノーシスの予防法
⑭	ワクチン接種①（種類）
⑮	ワクチン接種②（種類）
⑯	ワクチン接種③（プログラム）
⑰	ワクチン接種④（注意点）
評価方法	学期末試験の内容と出席状況、受講態度を考慮して成績を評価する。
受講生に対するメッセージ	犬と一緒に生活するために知っておく必要のある感染症を学ぶ。人にも移行する病気を知ることで、共に安全で幸せな生活を送ることができる。

教科書・参考書・資料・参考文献	教科書　参考書
書名『コンパニオン・アニマルの新健康管理学』　著者：浅野妃美、浅野隆司　出版社：インターズー	

授業科目	スタンダード学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	池田　玲奈		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員、トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
犬種についての現座、、特徴、標準体型などを学習する。

授業方法・形態	講義	講師			

犬全般の体の仕組みや犬種の特徴を学ぶことで、トレーニング・トリミング実習を行う際にも役立つ知識を得ることを目的とする。

授業計画・内容	
①	教科書の見方（犬種の索引方法など）
②	犬体名称のイラスト作成
③	犬体名称（犬を使用して確認）
④	犬の歯の種類と役割
⑤	噛み合わせのタイプと該当犬種
⑥	グループ名称と特徴（第１～２グループ）
⑦	〃　　（第３～４グループ）
⑧	〃　　（第５～７グループ）
⑨	〃　　（第８～１０グループ）
⑩	耳のバリエーションのイラスト作成
⑪	尾のバリエーションのイラスト作成
⑫	断耳と断尾　目的と該当犬種
⑬	犬の毛種パターン　①
⑭	犬の毛種パターン　②
⑮	ドッグショーの概要
⑯	〃　　の審査基準と流れ
⑰	〃　　のＤＶＤ鑑賞
評価方法	授業態度と出席状況、前後期筆記試験
受講生に対するメッセージ	犬の体の仕組みや犬種のスタンダードについて学び、その知識を実際に犬を扱う際にも役立てて欲しい。卒業後は犬を飼う予定の人や飼い主の相談に、適切なアドバイスができるように。
教科書・参考書・資料・参考文献	

最新犬種図鑑　写真で見る犬種とスタンダード／㈱インターズー

授業科目	動物行動学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	山内雅史 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー、長澤茂 実務経験：出張訓練所／トレーナー:、池田玲奈 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー				

授業の概要、科目のねらい、到達目標					
動物の行動について、特に犬の習性について学習する。					
授業方法・形態	講義	講師			
授業は講義を中心とする。この授業で学んだことを活用しながら、日々のパートナードッグとの接し方に結びつけて経験を積んでいく。					

授業計画・内容	
①	犬とはどんな動物か（習性と本能）
②	リーダーシップの必要性と方法
③	子犬期の接し方①
④	子犬期の接し方②
⑤	犬の五感
⑥	しつけの意義
⑦	犬の性格、性質に合ったトレーニング方法
⑧	馴致
⑨	分離不安①原因と症状
⑩	分離不安②予防と対処
⑪	犬の表現①吠え声
⑫	犬の表現②表情
⑬	犬の表現③ボディーランゲージ
⑭	カーミングシグナル
⑮	犬の攻撃性の原因別分類
⑯	権勢症候群の予防法
⑰	権勢症候群の対処法
評価方法	学期末試験の内容と出席状況、受講態度を考慮して成績を評価する。
受講生に対するメッセージ	この授業では『犬をトレーニングするためには、まず犬の事を理解すること』をテーマに学んでいく。そもそも犬とはどんな生き物なのか？を学ぶ事で、人も犬も無理なくトレーニングを行えるようになる。

教科書・参考書・資料・参考文献	教科書
『日本ケンネルカレッジビジネス講座　訓練オリジナルテキスト』 監修：一般社団法人日本キャリア教育技能検定協会　学校法人つくば国際ペット専門学校	

授業科目	動物社会学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	山内　雅史		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
社会の中での動物の役割、扱い方などを学習する。

授業方法・形態	講義	講師	単独		

近年人と犬はますます密接な関係になっており、飼い主は犬に対し人間社会に適応させるように指導していく必要がある。そのためにはまず飼い主の方が先に犬社会のルールを理解しておかなければならない。この科目では一般飼い主が犬を飼う上でしつけ面や健康面、マナーなど最低限必要な部分を講義する。

授業計画・内容	
①	人と犬の歴史
②	犬の種類と特徴
③	犬の体と能力
④	犬を取り巻く環境
⑤	病気の予防
⑥	病気と怪我の発見
⑦	ドッグフードの選び方
⑧	食べ物の与え方
⑨	手入れと管理
⑩	必要なマナー
⑪	しつけの必要性
⑫	優秀な家庭犬
⑬	群と序列
⑭	犬の性格
⑮	子犬のしつけ
⑯	問題行動の矯正
⑰	多頭飼いの注意

評価方法	定期試験の結果、出席状況、受講態度
受講生に対するメッセージ	この授業を受講した学生がいずれ就職先などで一般の飼い主様からの質問に対し適切にアドバイスができる立派な「愛犬相談員」を目指して欲しい。
教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	伴侶動物学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	池田　玲奈		実務経験:動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
伴侶動物の歴史から生態、品種、飼育管理方法などを学ぶ。

授業方法・形態	講義	講師			

授業は講義を中心とする。犬や猫に限らず、様々なコンパニオンアニマルを研究することで各種動物の理解を深める。

授業計画・内容			
①	伴侶動物とは①	⑱	猫と人間との歴史③
②	伴侶動物とは②	⑲	兎を始めとする小動物との歴史①
③	人と動物とのかかわりの歴史①	⑳	兎を始めとする小動物との歴史②
④	人と動物とのかかわりの歴史②	㉑	兎を始めとする小動物との歴史③
⑤	人と動物とのかかわりの歴史③	㉒	兎を始めとする小動物との歴史④
⑥	人と動物とのかかわりの歴史④	㉓	犬の品種①
⑦	人と動物とのかかわりの歴史⑤	㉔	犬の品種②
⑧	伴侶動物の種類①	㉕	犬の品種③
⑨	伴侶動物の種類②	㉖	犬の品種④
⑩	伴侶動物の種類③	㉗	猫の品種①
⑪	伴侶動物の種類④	㉘	猫の品種②
⑫	犬と人間との歴史①	㉙	兎、モルモットの品種①
⑬	犬と人間との歴史②	㉚	兎、モルモットの品種②
⑭	犬と人間との歴史③	㉛	兎、モルモットの品種③
⑮	犬と人間との歴史④	㉜	犬の飼育管理方法
⑯	猫と人間との歴史①	㉝	猫の飼育管理方法
⑰	猫と人間との歴史②	㉞	兎、モルモット等の飼育管理方法

評価方法	学期末試験の内容と出席状況、受講態度を考慮して成績を評価する。
受講生に対するメッセージ	「伴侶動物」の歴史を知ることで、人間にとっての有用性と伴侶動物にとっての存在意義が分かります。
教科書・参考書・資料・参考文献	教科書・参考書

授業科目	動物飼養管理学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	八尾　敦		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員		

授業の概要、科目のねらい、到達目標					
動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する。					
授業方法・形態	講義	講師			
授業は指定教本を用いた講義を中心とする。動物分野を幅広く学び、将来の就職に役立てる人材育成を目指す。また愛玩動物飼養管理士２級資格の取得を目指す。					

授業計画・内容	
①	愛玩動物飼養管理士とは
②	動物の適正飼養相談
③	動物観　西洋～東洋
④	人と動物の関係学
⑤	動物の愛護及び管理に関する法律１
⑥	動物の愛護及び管理に関する法律２
⑦	動物の愛護及び管理に関する法律３
⑧	動物の愛護及び管理に関する法律４
⑨	動物の愛護及び管理に関する法律５
⑩	関連法規
⑪	動物の体と仕組みについて
⑫	健康増進と疾病予防
⑬	衛生管理
⑭	動物の飼養管理　犬・猫他
⑮	動物の飼養管理　小鳥・小動物他
⑯	動物の飼養管理　爬虫類他
⑰	資格試験対策
評価方法	出席状況、ミニテスト、期末試験の成績、課題レポート、受講態度を考慮して評価。
受講生に対するメッセージ	動物を扱うんのとして、幅広い知識と意識を持つことは不可欠です。人と動物の関係という広い視野で学び、社旗に役立てる人材になってほしい。

教科書・参考書・資料・参考文献	教本
書名：「愛玩動物飼養管理士２級教本　１・２巻」	

授業科目	ペットビジネス学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間（合計 68 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	山内　雅史		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標

ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。

授業方法・形態	講義	講師	単独		

授業を通してまずはペット業界に関連する職業を内容と共に紹介し、そこで働き続けるためにはどのような知識が必要か、そして就職活動の手助けとなるような講義を目指す。

授業計画・内容

①	ペット産業について	⑱	日常での正しい子犬との接し方
②	ペット業界に関わる職業①	⑲	犬種選定（性格）
③	ペット業界に関わる職業②	⑳	犬種選定（性別）
④	ペット産業の歴史	㉑	犬種選定（純血種、雑種）
⑤	ペットショップの責務①	㉒	犬種選定（子犬、成犬）
⑥	ペットショップの責務②	㉓	犬種選定（大型、小型）
⑦	動物の愛護及び管理に関する法律①	㉔	犬種選定（室内、室外）
⑧	動物の愛護及び管理に関する法律②	㉕	犬種選定（長毛、短毛）
⑨	動物の愛護及び管理に関する法律③	㉖	子犬の健康チェック①
⑩	人気犬種の変遷	㉗	子犬の健康チェック②
⑪	しつけと訓練	㉘	子犬の健康チェック③
⑫	小動物販売	㉙	生体の仕入れ①
⑬	ペットフード業界	㉚	生体の仕入れ①
⑭	ペットフードの歴史	㉛	血統書の見方①
⑮	卸売業界	㉜	血統書の見方②
⑯	ペットフードの安全性①	㉝	血統書の見方③
⑰	ペットフードの安全性②	㉞	一胎子登録申請書の書き方

評価方法	定期試験の結果、出席状況、受講態度
受講生に対するメッセージ	授業を通してまずはペット業界に関連する職業を知り、そこで働き続けるためにはどのような知識が必要かなどを学習し、どの業種に就いても即戦力となって活躍してもらいたい。
教科書・参考書・資料・参考文献	教科書

『ペットビジネス　プロ養成講座　vpl.1　ペットショップ』　出版社：インターズー

授業科目	ペットビジネス学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間（合計 68 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	長澤　茂		実務経験: 出張訓練所／トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。

授業方法・形態	講義	講師			
講義と発表などを中心とする。受講により新たな知識を加え、他の生徒の発表を聞くことにより、見解を広げることを目的とする。					

授業計画・内容	
①	ペット関連の職種について（各自考案と発表）
②	犬・猫の飼育頭数の推移とその原因について
③	犬の生涯飼育費用（各自算出後検証）
④	第一種動物取扱業の概要
⑤	〃　　の業種の分類と該当職種
⑥	動物取扱責任者の概要と要件
⑦	分類Ⅰ　販売業
⑧	分類Ⅱ　保管業
⑨	分類Ⅲ　貸出業
⑩	分類Ⅳ　訓練業　①
⑪	分類Ⅳ　訓練業　②
⑫	分類Ⅴ　展示業
⑬	分類Ⅵ　競りあっせん業
⑭	分類Ⅶ　譲受飼養業
⑮	ペットショップにおける専門用語について
⑯	ペットショップの売り場づくりの需要要素　①
⑰	〃　②
評価方法	授業態度と出席状況、前後期筆記試験
受講生に対するメッセージ	ペット業界の現状とペット関連業についての理解を深め、進路を決めるうえで生かして欲しい。

教科書・参考書・資料・参考文献	
ペットビジネス　プロ養成講座 Vol. 1　ペットショップ／㈱インターズー	

授業科目	飼育管理学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	岡野　昌司		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
動物飼育の方法について学ぶ。

授業方法・形態	講義	講師			

授業はテキストや配布資料を用いた講義を中心とする。

授業計画・内容	
①	適正しいくとは何か
②	適正な飼育環境①（ハードウェア編）
③	適正な飼育環境②（ソフトウェア編）
④	犬の生活リズムと家族の生活リズムの関係性
⑤	睡眠が果たす役割
⑥	犬種毎の特性と運動量
⑦	犬の熱管理
⑧	熱中症対策
⑨	過食
⑩	摂食障害
⑪	空間的自由を満たす事とは
⑫	社会的ふれあいの必要性
⑬	探索行動欲求を満たす事で果たせるもの
⑭	病気と高齢化
⑮	老化対策
⑯	老化のプロセス
⑰	ペットロスのついて
評価方法	授業態度と定期試験の結果による。
受講生に対するメッセージ	犬の健康管理と適正な飼育方法・飼育環境作りを目的にしています。

教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	動物環境学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	岡野　昌司		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
動物を飼育する環境、動物がいる環境について学習する。また現代においてペットツーリズムを学ぶ。

授業方法・形態	講義	講師			

授業はテキストや配布資料を用いた講義を中心とするほか、実習犬等を用いての実技も行う。

授業計画・内容	
①	飼養環境整備①
②	飼養環境整備②
③	飼養環境整備③
④	ペットツーリズムとドッグラン①
⑤	ペットツーリズムとドッグラン②
⑥	ペットツーリズムとドッグラン③
⑦	保護収容施設①
⑧	保護収容施設②
⑨	保護収容施設③
⑩	教育・訓練施設①
⑪	教育・訓練施設②
⑫	教育・訓練施設③
⑬	動物介在教育施設①
⑭	動物介在教育施設②
⑮	動物介在教育施設③
⑯	飼育とマナーとリスク対応①
⑰	飼育とマナーとリスク対応②
評価方法	授業態度と定期試験の結果による。
受講生に対するメッセージ	健全な飼育環境と生活スタイルの構築するためのノウハウを身に着ける事を目指します。

教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	動物管理学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	岡野　昌司		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
動物を飼育する場所の管理について学習する。

授業方法・形態	講義	講師			

授業はテキストや配布資料を用いた講義を中心とするほか、実習犬等を用いての実技も行う。

授業計画・内容	
⑱	犬と人間との関係構築
⑲	生活スタイルとフードの関係
⑳	適正な飼育環境①（ハードウェア編）
21	適正な飼育環境②（ソフトウェア編）
22	便と健康管理
23	犬種毎の特性と運動量
24	犬の熱管理
25	肥満（摂食）
26	肥満（性ホルモン）
27	摂食障害
28	ホルモンと精神構造
29	コミュニケーション
30	病気と高齢化
31	老化対策としての運動
32	老化対策としての脳トレ
33	老化のプロセス
34	ペットロスのついて
評価方法	授業態度と定期試験の結果による。
受講生に対するメッセージ	健全な飼育環境と生活スタイルの構築するためのノウハウを身に着ける事を目指します。

教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	ビジネスマナー		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	岡野　昌司		実務経験:動物テーマパーク／飼育員、トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
ビジネスにおけるマナーや文書の書き方などを学習する。

授業方法・形態	講義	講師	単独		

授業は講義を中心とし、検定試験前には過去問題で模擬試験を行う。 電子メールやビジネス文書・電話対応等は実際に受講生に作成してもらい身に着けていく。

授業計画・内容	
①	期待される社会人とは
②	働く意義を考える
③	職業選択の為の行動
④	福利厚生について
⑤	会社の基本とルール(コンプライアンス)
⑥	仕事の８つの意識①
⑦	仕事の８つの意識②
⑧	コミュニケーションの基本(身だしなみ)
⑨	敬語の種類
⑩	話し方と聞き方のポイント
⑪	職場のルール(就業規則)
⑫	指示を受けるポイント(電子メールの利用)
⑬	ビジネス文書①(社内文書)
⑭	ビジネス文書②(社外文書)
⑮	電話対応
⑯	来客対応の基本・流れ・席次
⑰	会食のマナー(テーブルマナー)・冠婚葬祭の基本
評価方法	①出席率・受講態度　　②定期試験結果　③ビジネス能力検定の合否
受講生に対するメッセージ	この科目では、社会に出る為(働く為)に必要な一般常識やマナー等を中心に講義を行う。 ただ講義を受講するだけではなく、しっかりと身に着けて今後に役立てて貰いたい。

教科書・参考書・資料・参考文献	必要に応じて資料を配布

書名：要点と演習　ビジネス能力検定ジョブパス３級／著作者：ビジネス能力検定ジョブパス研究会／出版社：実教出版株式会社／出版年：2019 年／入手方法：一般書店、ネット購入

授業科目	ペットショップ概論		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	34 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	小寺　智也		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標
ペットショップにおける役割と責務、販売に関する基礎知識などを学ぶ。

授業方法・形態	講義	講師			

授業はテキストや配布資料を用いた講義を中心とする。

授業計画・内容	
⑯	ペット産業の歴史としくみ
⑰	ペットの販売に関する法律①
⑱	ペットの販売に関する法律②
⑲	犬の繁殖と遺伝
⑳	猫の繁殖と遺伝
21	ペットの飼育と管理①
22	ペットの飼育と管理②
23	ペットの飼育と管理③
24	ペットフードの基礎知識①
25	ペットフードの基礎知識②
26	商品の陳列・販売のポイント　しつけ関連商品
27	商品の陳列・販売のポイント　ケア関連商品
28	顧客管理　在庫管理①
29	顧客管理　在庫管理②
30	接客マナーについて
31	開業について①
32	開業について②
評価方法	授業態度と定期試験の結果による。
受講生に対するメッセージ	ペットショップが果たす役割や責務から、運営に関してを学びます。

教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	動物衛生学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	山内　雅史		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標

動物飼養に関する消毒方法、廃棄物の扱い方等を学習する。

授業方法・形態	講義と演習	講師	単独		

犬の体を健康的に維持するために必要な知識や技術を講義や演習を通して行い、学生に動物を飼うということへの意識を高める。

授業計画・内容

①	排泄方法について	⑱	歯磨き②
②	排泄処理について	⑲	歯石除去①
③	排泄方法（しつけ）①	⑳	歯石除去②
④	排泄方法（しつけ）②	㉑	耳掃除①
⑤	繋留の方法①	㉒	耳掃除②
⑥	繋留の方法②	㉓	投薬について①
⑦	散歩について①	㉔	投薬について②
⑧	散歩について②	㉕	包皮炎洗浄①
⑨	ケージの洗浄①	㉖	包皮炎洗浄②
⑩	ケージの洗浄②	㉗	発情中の注意点①
⑪	消毒について①	㉘	発情中の注意点②
⑫	消毒について②	㉙	車酔い①
⑬	ブラッシング①	㉚	車酔い②
⑭	ブラッシング②	㉛	病気の予防①
⑮	爪切り①	㉜	病気の予防②
⑯	爪きり②	㉝	必要なマナー①
⑰	歯磨き①	㉞	必要なマナー②

評価方法	定期試験の結果、出席状況、受講態度
受講生に対するメッセージ	パートナードッグを通し一つの命を預かるということへの重大さを自覚し、責任感を持ち管理することを学び、また演習の中で必要な技術を身に付けて欲しい。
教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	しつけ訓練学		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	山内　雅史		実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー		

授業の概要、科目のねらい、到達目標

犬の習性、骨格、気質などを理解し、その訓練方法を学習する。

授業方法・形態	講義	講師			

トレーニング実習で行う事の理解を深めるため、実習に合わせた内容で理論の学習・ｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝを行う。

授業計画・内容

①	犬の習性と行動	⑱	問題行動の発達（行動ニーズとストレスの影響）
②	オオカミ理論と犬との差異と共通点	⑲	問題行動治療の理論
③	選択育種と現代の犬	⑳	問題行動治療の対処（攻撃性）
④	社会化期と社会化の役割	㉑	問題行動治療の対処（無駄吠え）
⑤	行動の分類	㉒	問題行動治療の対処（不適切な排泄）
⑥	正常行動と問題行動	㉓	問題行動治療の対処（異常な恐怖心）
⑦	問題行動と異常行動の違い	㉔	問題行動治療の対処（活動性・行き過ぎた興奮）
⑧	問題行動の定義	㉕	問題行動治療の対処（その他）
⑨	飼育環境と問題行動の定義の変化	㉖	好ましい行動の強化（定時隔スケジュール）
⑩	犬の学習と行動理由	㉗	好ましい行動の強化（定率隔スケジュール）
⑪	問題行動の発現理由	㉘	定時隔・定率隔スケジュールの問題点
⑫	に影響を与えるもの	㉙	好ましい行動の強化（変時隔スケジュール）
⑬	問題行動の発達（遺伝子的要因の影響）	㉚	好ましい行動の強化（変率隔スケジュール）
⑭	問題行動の発達（生理学的要因の影響）	㉛	変時・変率隔スケジュールの注意点
⑮	問題行動の発達（社会化期の経験の影響）	㉜	問題行動事例に対するｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ及び発表①
⑯	問題行動の発達（広義の学習の影響）	㉝	問題行動事例に対するｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ及び発表②
⑰	問題行動の発達（飼育環境の影響）	㉞	問題行動事例に対するｸﾞﾙｰﾌﾟﾃﾞｨｽｶｯｼｮﾝ及び発表③

評価方法	授業態度・定期試験の成績による。
受講生に対するメッセージ	トレーニング実習で必要な理論について学習する。 実習で行っているトレーニング方法の裏付けとしての役割を果たす。
教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	グルーミング実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間（合計 170 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	宮本利子　実務経験: トリミングサロン／トリマー、村越渚、田中陽菜、千葉春里				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬の手入れ方法、シャンプー、ブロー、クリッピングなどを実習で習得する。					
授業方法・形態	演習	講師			
犬種によって 1～3 名のグループに分かれて作業をする。					

授業計画・内容			
①	道具の説明	⑱	柴犬②
②	道具の使い方	⑲	ゴールデンレトリーバー①
③	グルーミング作業説明①	⑳	ゴールデンレトリーバー②
④	グルーミング作業説明②	㉑	ウェルシュコーギー①
⑤	グルーミング実践①	㉒	ウェルシュコーギー②
⑥	グルーミング実践②	㉓	シェットランドシープドッグ①
⑦	ビーグル①	㉔	シェットランドシープドッグ②
⑧	ビーグル②	㉕	ミニチュアダックスフンド①
⑨	ジャックラッセルテリア①	㉖	ビーグル③
⑩	ジャックラッセルテリア②	㉗	ジャックラッセルテリア③
⑪	パピヨン①	㉘	パピヨン③
⑫	パピヨン②	㉙	ラブラドールレトリーバー③
⑬	ラブラドールレトリーバー①	㉚	ボーダーコリー③
⑭	ラブラドールレトリーバー②	㉛	柴犬③
⑮	ボーダーコリー①	㉜	ゴールデンレトリーバー③
⑯	ボーダーコリー②	㉝	ウェルシュコーギー③
⑰	柴犬①	㉞	シェットランドシープドッグ③

評価方法	１つ１つの作業の仕上がり及び作業にかかった時間。道具の使い方が正しいか、犬に負担をかけないで作業しているか。自分が何をすればいいのか考えて行動できているか。出席率。
受講生に対するメッセージ	犬と生活していく上で必要不可欠なグルーミング。トリミングテーブルの上で犬をコントロールして大人しく作業させるという意味ではトレーナーの資質を問われる授業である。
教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	グルーミング実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	102 時間（合計 170 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	宮本利子／実務経験：トリミングサロン／トリマー、村越渚、田中陽菜、千葉春里				

授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬の手入れ方法、シャンプー、ブロー、クリッピングなどを実習で習得する。 トリマーライセンス 3 級の取得を目標にする。					
授業方法・形態	講義	講師			
犬種によって 1～3 名のグループに分かれて作業をする。					

授業計画・内容	
①	足周りのカット説明①
②	足回りのカット説明②
③	小型犬①
④	大型犬①
⑤	超大型犬①
⑥	小型犬②
⑦	大型犬②
⑧	超大型犬②
⑨	ライセンス 3 級練習①
⑩	ライセンス 3 級練習②
⑪	小型犬③
⑫	大型犬③
⑬	超大型犬③
⑭	小型犬④
⑮	大型犬④
⑯	超大型犬④
⑰	大型犬⑤
評価方法	１つ１つの作業の仕上がり及び作業にかかった時間。道具の使い方が正しいか、犬に負担をかけないで作業しているか。自分が何をすればいいのか考えて行動できているか。出席率。
受講生に対するメッセージ	犬と生活していく上で必要不可欠なグルーミング。トリミングテーブルの上で犬をコントロールして大人しく作業させるという意味ではトレーナーの資質を問われる授業である。
教科書・参考書・資料・参考文献	

授業科目	トレーニング実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	272 時間（合計 476 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	1　年次	学期	前期・後期
担当教員	山内雅史 実務経験：動物テーマパーク／飼育員・トレーナー、岡野昌司 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー、長澤茂 実務経験：出張訓練所／トレーナー:、池田玲奈 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬のしつけ、訓練全般を実習で習得する。					
授業方法・形態	演習	講師			
授業は一人一頭のパートナードッグを使用する。基礎となる『犬とのコミュニケーション』を中心に服従訓練を一から教える。					

授業計画・内容

①	オリエンテーション、実習規約	⑱	ライセンス 3 級模擬試験　一回目
②	道具説明、トレーニングの意義と必要性	⑲	ライセンス 3 級模擬試験　二回目
③	繋留、ショック	⑳	ライセンス 3 級認定試験
④	犬への近づき方	㉑	呼び戻しトレーニング
⑤	犬との遊び方	㉒	ハウストレーニング
⑥	ホールドスチール、タッチング、マズルコントロール	㉓	ノーリード①
⑦	リーダーウォーク	㉔	ノーリード②
⑧	アイコンタクト	㉕	二頭目服従訓練
⑨	トレーニングの組み立て方	㉖	ドッグパフォーマンス
⑩	停座	㉗	据座
⑪	伏臥	㉘	障害飛越（片道）
⑫	休止	㉙	自由課目 2 級①
⑬	立止	㉚	自由課目 2 級②
⑭	脚側行進	㉛	ライセンス 2 級コース説明
⑮	脚側停座	㉜	ライセンス 2 級模擬試験　一回目
⑯	自由課目 3 級	㉝	ライセンス 2 級模擬試験　二回目
⑰	ライセンス 3 級コース説明	㉞	ライセンス 2 級認定試験

評価方法	ライセンス認定試験（３・２級）の内容と出席状況、授業態度
受講生に対するメッセージ	パートナードッグを使用した、徹底した実技中心の授業を行う。基礎から訓練技術習得や訓練の披露と表現方法及び指導方法の習得までを目標としている。
教科書・参考書・資料・参考文献	訓練マニュアル

『基本訓練マニュアル』　出版社：ジャパンケネルクラブ

授業科目	トレーニング実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	204 時間（合計 476 時間）	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	山内雅史 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー、岡野昌司 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー、長澤茂 実務経験：出張訓練所／トレーナー:、池田玲奈 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
犬のしつけ、訓練全般を実習で習得する。					
授業方法・形態	演習	講師			
パートナードッグを使用しての実技を中心に行う。自身の訓練技術の修得を目指すとともに、パートナードッグの成長を目指す。また、訓練されたパートナードッグを使用し動物介在活動も実践授業として取り入れている。					

授業計画・内容

⑱	基本訓練課目の復習	⑱	行動の強化（連続強化・定率）
②	基本訓練課目の復習	⑲	行動の強化（間欠強化・変時）
③	基本訓練課目の復習	⑳	行動の強化（間欠強化・変時）
④	問題行動の矯正	㉑	行動の強化（間欠強化・変率）
⑤	訓練時における褒美の使い分け	㉒	行動の強化（間欠強化・変率）
⑥	集中力の強化	㉓	動物介在活動
⑦	誘惑の排除（訓練と対処）	㉔	動物介在活動
⑧	誘惑の排除（訓練と対処）	㉕	応用訓練課目に対する般化・その１
⑨	基本訓練課目に対する般化・その１	㉖	応用訓練課目に対する般化・その２
⑩	基本訓練課目に対する般化・その２	㉗	応用訓練課目に対する般化・その３
⑪	基本訓練課目に対する般化・その３	㉘	行動の強化（連続強化・定時）
⑫	遠隔指示訓練	㉙	行動の強化（連続強化・定率）
⑬	行動の強化（シェーピング）	㉚	行動の強化（間欠強化・変時）
⑭	行動の強化（シェーピング）	㉛	行動の強化（間欠強化・変率）
⑮	行動の強化（連続強化・定時）	㉜	訓練の指導に対する訓練
⑯	行動の強化（連続強化・定時）	㉝	ライセンス試験（１級）に向けて（全体総復習）
⑰	行動の強化（連続強化・定率）	㉞	ライセンス試験（１級）に向けて（全体総復習）

評価方法	実技試験（ライセンス試験）評点による。
受講生に対するメッセージ	徹底した実技の授業を行い、訓練技術習得や訓練の披露と表現方法及び指導方法の修得までを目標としている。
教科書・参考書・資料・参考文献	訓練マニュアル

『基本訓練マニュアル』　出版社：ジャパンケネルクラブ

授業科目	アジリティ実習		実務経験のある教員等による授業科目		
必修・選択	必修		時間数	68 時間	
科目設置学科	ドッグトレーナー	開講学年	2　年次	学期	前期・後期
担当教員	長澤茂 実務経験出張訓練所／トレーナー、池田玲奈実 実務経験: 動物テーマパーク／飼育員・トレーナー				
授業の概要、科目のねらい、到達目標					
アジリティの練習を実習で行う。					
授業方法・形態	演習	講師			
実習を中心とする。一人ずつ実技を行うことで、各自の技術を高めることに加え、ほかのペア（生徒と犬）の実技を見ることで犬にあった教え方を学ぶことができる。					

授業計画・内容			
①	アジリティーに必要な服従訓練	⑱	バックスイッチを含むハンドリング①
②	トンネルの基礎練習	⑲	〃　②
③	トンネル（ストレート）の左サイド練習	⑳	〃　③
④	〃　右サイド練習	㉑	ハードル、トンネルのコース練習　①
⑤	トンネル（カーブ）の左サイド練習	㉒	〃　②
⑥	〃　右サイド練習	㉓	〃　③
⑦	ハードルの基礎練習　①	㉔	〃　④
⑧	〃　②	㉕	ドッグウォークの基礎練習　①
⑨	右回り、左回りの誘導練習	㉖	〃　②
⑩	ハードル、トンネルのシーケンス右サイド①	㉗	〃　③
⑪	〃　②	㉘	Aフレーム　①
⑫	〃　左サイド①	㉙	〃　②
⑬	〃　②	㉚	〃　③
⑭	フロントスイッチを含むハンドリング①	㉛	競技会ビギナーレベルのコース練習①
⑮	〃　②	㉜	〃　②
⑯	〃　③	㉝	〃　③
⑰	前期実技試験	㉞	後期実技試験

評価方法	授業態度と出席状況、前後期実技試験
受講生に対するメッセージ	アジリティーを通して犬とのコミュニケーションをさらに高めると共に、アジリティーの楽しさやコミュニケーションの大切さを学ぶ。
教科書・参考書・資料・参考文献	